



一般社団法人 日本森林学会

「林業遺産」

2022年度 2件を選定しました

事業の背景と経緯

日本各地の林業は、地域の森林をめぐる人間の営みの中で編み出され、明治期以降は海外の思想・技術も取り入れながら、大戦期の混乱を経て今日に至るまで、多様な発展を遂げてきました。

日本森林学会では、学会100周年を契機として、こうした日本各地の林業発展の歴史を、将来にわたって記憶・記録していくための試みとして、「林業遺産」選定事業を2013年度から開始致しました。

10年目となった2022年度は、2件を林業遺産(登録No: 49~50)として認定しました。選定結果は、2023年5月31日の日本森林学会定時総会において公表され、認定証・記念品が各件の所有者・管理者等に贈呈されました。

問い合わせ先など

事業推進責任者: 日本森林学会 会長 丹下 健

林業遺産選定委員長 深町 加津枝

広報責任者: 日本森林学会 総務理事 陣川 雅樹

林業遺産選定委員会 事務局委員 檀浦 正子

学会事務局: 〒102-0085 東京都千代田区六番町7 日林協会館内

Tel&Fax: 03-3261-2766

※お急ぎの場合は forestryheritage.jp@gmail.com (担当: 檀浦) に、取材希望との短いメッセージをお寄せください。折り返しご連絡いたします。

詳細情報については、学会ウェブサイト「林業遺産」もご参照下さい。

<https://www.forestry.jp/efforts/forestryheritage/>

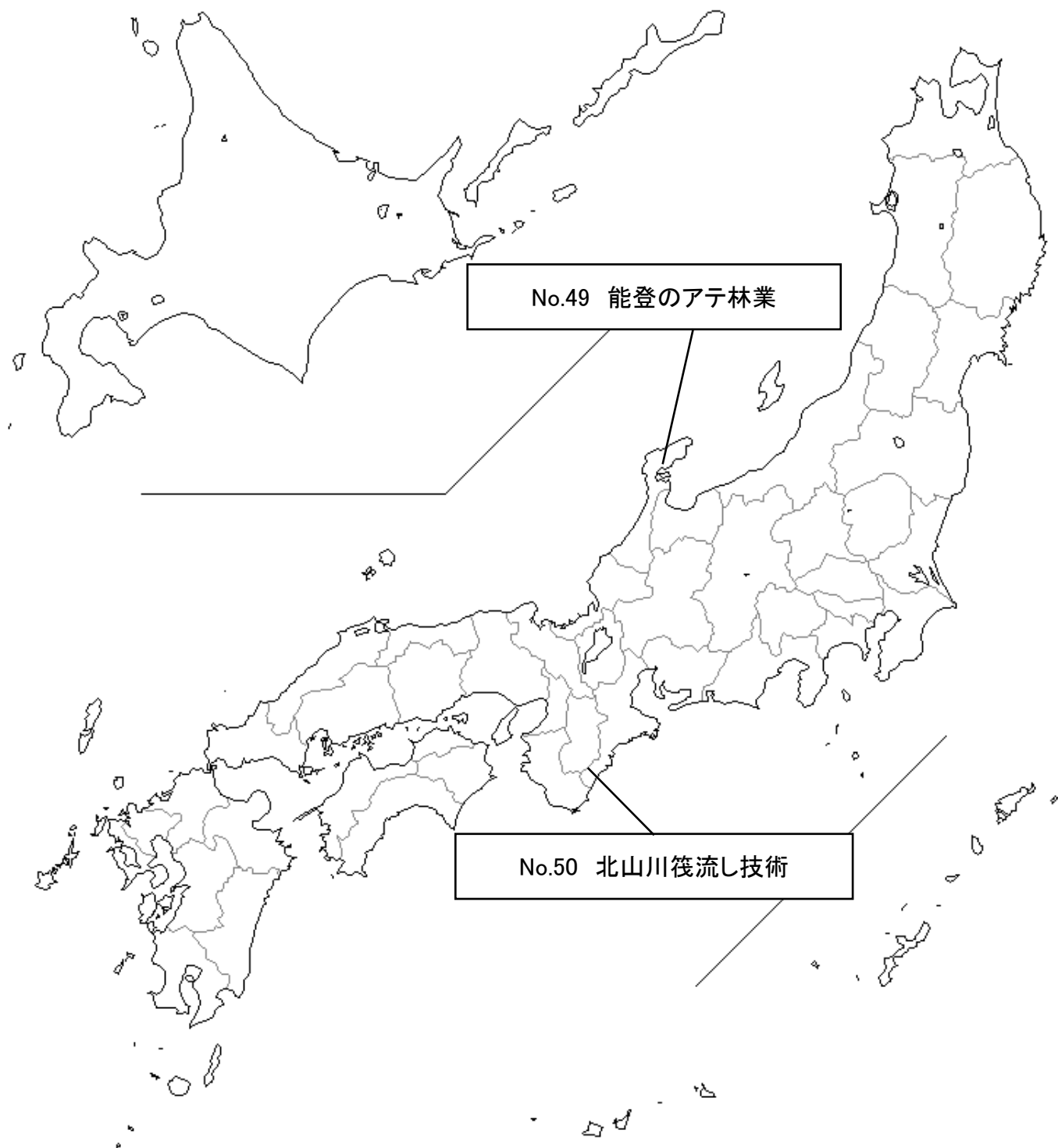
2022年度林業遺産選定結果と主な内容

登録番号	林業遺産名	分類・形式	成立年代	所在地	所有・管理者	説明
49	能登のアテ林業(のとのあてりんぎょう)	林業景観、技術体系、林業記念地	江戸時代中期	1, 林業景観 輪島市、穴水町、七尾市、能登町、珠洲市(ヒノキアスナロ人工林:面積順) 2, 技術体系 石川県能登地方を対象としたアテ林業の技術体系 3, 林業記念地 輪島市門前町浦上10の21番1地「元祖アテ」	1, 林業景観(面積順) 能登森林組合 輪島市 穴水町 七尾市 能登町 珠洲市 2, 技術体系 石川県農林総合研究センター林業試験場 3, 林業記念地 鳳至郡門前町浦上10の21番1地 泉家	能登地方にみられるアテ(ヒノキアスナロ)の林業景観とそれを維持・管理する特有の技術体系は、江戸時代中期から発展してきた伝統的なものであり、現存する古木とともにその姿を今に伝えている。
50	北山川の筏流し技術(きたやまがわのいかだながしぎじゅつ)	技術体系	16世紀前半	〒647-1603 東牟婁郡北山村大字大沼87	北山振興株式会社	木材流送の技術として発展した筏流し技術が、現在でも観光筏下りとして保存・継承されており、伝統的な筏流しの姿を今に伝える全国唯一の例として、熊野地域の林業の歴史と伝統を今日に伝えている。

詳細については、各件の所有者・管理者までお問い合わせ下さい。

今回の選定により、これまで登録された林業遺産は50件となりました。
2023年度以降も当事業は継続して参りますので、各地からの積極的な応募推薦をお待ちしております。

2022年度林業遺産 登録No.49～50 所在地図



全林業遺産(2013～2022年度)リスト

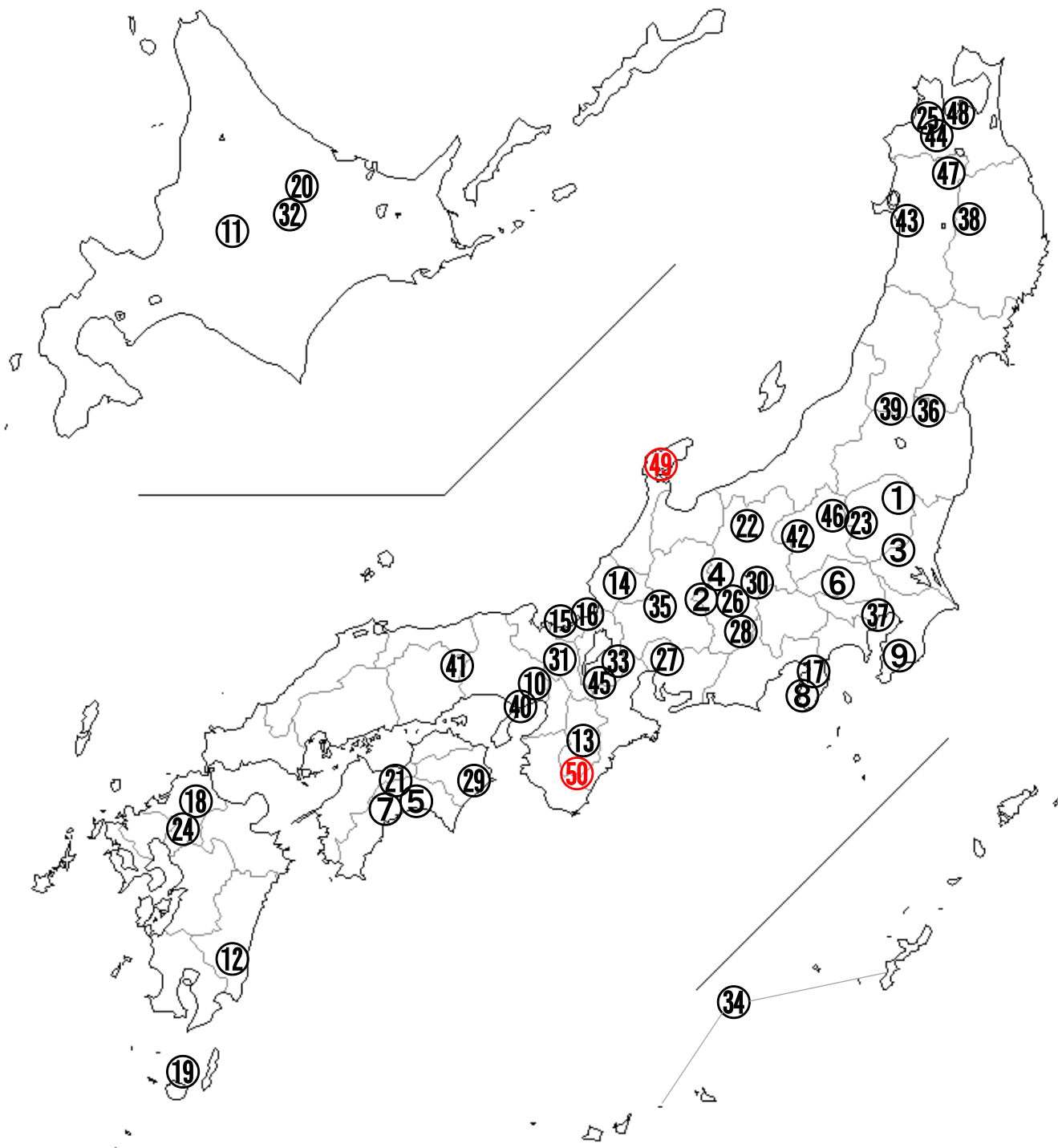
年度	No.	対象名	都道府県
2013	1	「太山の左知」をはじめとした興野家文書	栃木
	2	旧木曾山林学校にかかわる林業教育資料ならびに演習林	長野
	3	全国緑化行事発祥の地	茨城
	4	木曾森林鉄道(遺産群)	長野
	5	四国森林管理局保存の大正～昭和初期の林業関係写真	高知
	6	飯能の西川材関係用具	埼玉
	7	いの町の森林軌道跡	高知
	8	東京大学樹芸研究所岩樟園クスノキ林	静岡
	9	大学演習林発祥の地:浅間山(千葉県鴨川市)	千葉
	10	猪名川上流域の里山(台場クヌギ林)	兵庫
2014	11	天然林施業実践の森「東京大学北海道演習林」	北海道
	12	飫肥林業を代表する弁甲材生産の歴史	宮崎
	13	吉野林業	奈良
	14	越前オウレンの栽培技術	福井
2015	15	若狭地域に継承された 研磨炭の製炭技術	福井
	16	若狭地域の里山における熊川葛の生産技術	福井
2016	17	伊豆半島の森林史に関する資料	静岡
	18	小石原の行者杉	福岡
	19	屋久島の林業集落跡及び森林軌道跡	鹿児島
	20	蒸気機関車「雨宮21号」と武利意・上丸瀬布森林鉄道遺構群	北海道
	21	初代保護林 白髪山天然ヒノキ林木遺伝資源保存林	高知
	22	木曾式伐木運材図会	長野
	23	足尾における治山事業による緑の復元	栃木
2017	24	矢部村における木馬道と木場作林業	福岡
	25	我が国初の森林鉄道「津軽森林鉄道」遺構群及び関係資料群	青森
	26	旧帝室林野局木曾支局庁舎および収蔵資料群	長野
	27	日本近代砂防の祖・諸戸北郎博士の設計による溪間工事建造物群	愛知
	28	遠山森林鉄道の資料および道具類・遺構群	長野
	29	海部の樵木林業	徳島
	30	進徳の森と中村弥六の関連資料群	長野
	31	北山林業	京都
2018	32	十勝三股の林業集落跡地と森林景観	北海道
	33	木地師文化発祥の地 東近江市小椋谷	滋賀
	34	琉球王朝時代の多良間島の「抱護」と『林政八書』	沖縄
	35	郡上林業の歴史と技術を伝承する資料・展示と社叢林	岐阜

全林業遺産(2013～2022年度)リスト

年度	No.	対象名	都道府県
2019	36	湯野風穴種子貯蔵施設遺構	福島
	37	大日本山林会 林業文献センターと収集資料群	東京
	38	平蔵沢ヒバ人工林施業展示林	岩手
	39	米沢市の山との暮らしを伝える遺産群:草木塔群と木流し	山形
	40	再度山の植林と関連資料	兵庫
	41	大型木製水車駆動帯鋸製材装置一式	岡山
2020	42	川浦山御用木御伐出絵図	群馬
	43	秋田藩家老渋江政光の林業思想に関する古文書及び石碑	秋田
	44	坪毛沢ヒバ木製治山堰堤群	青森
	45	甲賀の前挽鋸製造および流通に関する資料群	滋賀
2021	46	林業機械化センター保存の森林鉄道車両群と根利森林鉄道遺構	群馬
	47	長走風穴種子貯蔵遺構	秋田
	48	旧青森営林局庁舎(現青森市森林博物館)	青森
2022	49	能登のアテ林業	石川
	50	北山川の筏流し技術	和歌山

全林業遺産(2013～2022年度)地図

● 2022年度 ● 2021年度まで



能登のアテ林業

(のとのあてりんぎょう)

アテは、ヒノキ科アスナロ属アスナロの変種であるヒノキアスナロ *Thujopsis dolabrata* Sieb.et Zucc. var. *hondae* Makinoの地方名で、能登を中心とした日本海側にその系統の名称が分布している。アテは耐陰性が強く、樹下植栽後の適切な枝打ち、間伐により多段林の形成が可能であった。輪島地域を中心とした能登地方では古くから農家の余暇労力を利用したマアテの複層林経営が営まれていた。複層林施業は高度な管理技術が求められる一方で、少規模でも収穫を繰り返しながら再造林、育林を同時に行うことができることが特徴である。この能登地方にみられるアテの林業景観とそれを維持・管理する特有の技術体系は、江戸時代中期から発展してきた伝統的なものであり、林業遺産としての価値が認められる。また地元で「元祖アテ」と呼ばれる2本の巨木は、樹齢450年と推定され、樹高はともに約30m、幹周は4.0mと3.6mと県内でも最大である。天正年間(1573~1592)に東北地方から苗木を持参したという伝承もあり、能登のアテ林業の象徴となっている。



アテ複層林

択伐施業(珠洲市若山町)



認定対象:アテ林業地の林業景観、苗木生産・複層林施業の技術体系、林業記念地としての元祖アテ

所在:1, 林業景観 石川県輪島市、珠洲市、鳳珠郡穴水町、鳳珠郡能登町、七尾市内(ヒノキアスナロ人工林)

2, 技術体系 石川県能登地方を対象としたアテ林業の技術体系

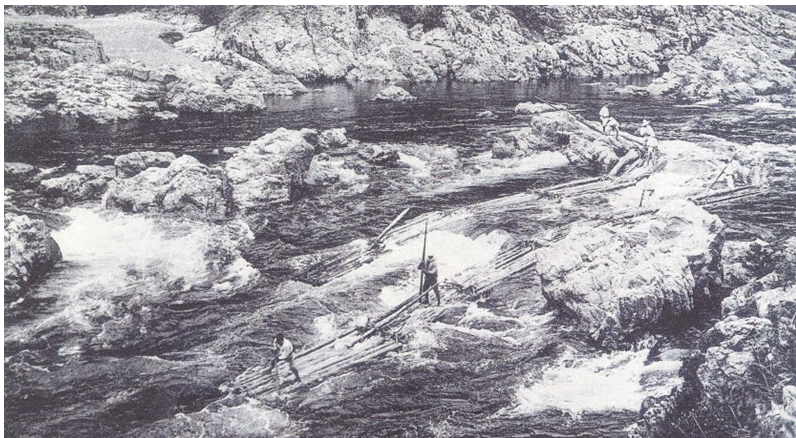
3, 林業記念地 石川県輪島市門前町浦上10の21番1地「元祖アテ」

北山川の筏流し技術

(きたやまがわのいかだながしぎじゅつ)

北山川の筏流しは、大台ヶ原を源流とする北山川水系において、16世紀ごろより昭和30年代まで継承されてきた木材流送の技術である。最盛期の年間流送量は、十津川筋とあわせて「熊野川筏百万石」といわれた。また、筏師の数は和歌山県北山村だけで数百人に達し、筏による流送は地域の林業を大きく支えていた。戦後も筏は1日100乗ほど流され、復興に寄与したとされている。しかし、河川を利用した木材の流送は道路網整備によるトラック輸送への転換や、大規模なダム開発によって全国的に衰退し、北山川水系では昭和38年5月の筏流しが最後となった。

筏による流送は、「筏を組む技術」と「筏を流す技術」からなり、近代以前の木材流通の主役であった。北山川における筏流しは、その中でも長い歴史を持ち、大規模に行われ、発達した職能集団を抱えてきたという点で、代表的な存在であり、北山川流域の林業とともに重要な価値をもつ。さらに、その技術は昭和54年8月より開始した「観光筏下り」に引き継がれ、今日なお保存・継承されている。北山川の筏流しは、伝統的な筏流しの姿を今に伝える全国唯一の例であり、そこで使われている技術も、熊野地域の林業の歴史と伝統を今日に伝えるものである。これらの点から「林業遺産」とする価値が認められる。



北山川(熊野川支流)の筏流し 昭和10年頃



現在(令和4年)の観光筏下り

認定対象: 筏による流送技術

所在: 和歌山県東牟婁郡北山村大字大沼87

事業の内容

「林業遺産」事業では、各年度ごとに以下の分類に基づき、林業発展の歴史を示す景観、施設、跡地等、土地に結びついたものを中心に、体系的な技術、特徴的な道具類、古文書等の資料群を、林業遺産として認定しています。

- (1) 林業景観(用材林、防災林、薪炭林、特用林産物生産林等の森林の利用に関する景観)
- (2) 林業発祥地(有名・独特な施業体系をもつ林業の発祥地)
- (3) 林業記念地(記念植樹、旧係争地等の森林利用に関するメルクマールの意味を持つ土地)
- (4) 林業跡地(施業跡地、土場・炭焼き等の利用跡地)
- (5) 搬出関連(森林軌道、林道、筏場、木馬道等。現存・跡地を含む)
- (6) 建造物(林業発展の歴史を示す建造物。現存・跡地を含む)
- (7) 技術体系(林産物加工技術、施業計画等)
- (8) 道具類(地域の林業発展を特徴づけるまとまった道具類)
- (9) 資料群(林業関連のまとまった古文書・近代資料、写真、映像等)

候補の推薦は、学会員を通じて行われ、「林業遺産選定委員会」にて審議の上、理事会の承認を経て選定となります。推薦にあたっては、対象の所有者・管理者の了解を得ていることが条件です。

一般の窓口として、「地区推薦委員」を設けています。林業遺産としての認定を希望される対象の所有者・管理者の方は、その所在地区の地区推薦委員にお問い合わせの上、推薦などのサポートを依頼することができます。



＜林業遺産ロゴマーク＞